

平成29年産麦の初検査

秋まき小麦の生育は、夏から秋にかけて多雨の影響で前作物の収穫が遅れ、播種作業が遅れがちとなり、越冬前の生育は劣りました。また、一部地域では雪腐病の防除ができず被害がありました。

春以降の生育は、気象条件に恵まれ、各地とも概ね平年並みの生育に回復し、5月は高温傾向で幼穂形成期から止葉期にかけて生育の回復がみられました。出穂期はほとんどの地域で平年よりも早まりましたが、6月上旬には一転して低温傾向となり生育が停滞気味で推移しました。

7月は平均気温、日照時間も平年をかなり上回り、成熟期も平年並となりました。その後、一部地区で収穫期間際に降雨があり収穫の遅延等を心配しておりましたが、その影響は軽微で収穫は平年並にスタートしました。

品質・収量等については、6月の天候不順や7月に干ばつ傾向であったことから、各地区とも原料品位に応じて慎重な調製作業を行っております。

この様な中、8月より小麦の検査が空知地区を皮切りに開始され、今後全道各地でも開始する予定となっております。



JA いわみざわ
安藤検査員による初検査
(きたほなみ)

